

消化器科 の研修目標と実施計画

研 修 目 標 内 容	自己 評価	指導医 評価
消化器科の研修目標		
1. 消化器疾患の検査の基本的技術を習得し、その検査所見の読影能力を身につける。		
2. 患者の検査および治療計画を立てることができる。		
3. 消化器疾患の典型例を診断することができ、また、外科的適応の有無を判断できる。		
4. 癌末期患者の管理と治療について理解できる。		
5. 糖尿病患者の検査や治療について理解し、治療計画を立てることができる。		
6. 高脂血症について理解し、治療できる。		
消化器科研修到達		
1. 基本的手技の修得		
a. 腹部の理学的所見がとれる。		
b. 腹部単純撮影写真が読影できる。		
c. 胃、腸X線透視検査ができる。また、代表的疾患の読影ができる。		
d. 胃内視鏡検査で内視鏡を胃まで挿入できる。また、代表的疾患の写真読影ができる。		
e. 緊急内視鏡、生検、止血、大腸内視鏡、ポリペクトミー、ERCP、PTCD、食道静脈瘤硬化療法、腹部血管造影、肝動脈塞栓術の助手または見学をする。		
f. 腹部の超音波診断が一通りできる。		
g. 腹水穿刺ができる。		
2. 治療上の基本的なものの修得		
a. 検査計画、治療計画をつくることができる。		
b. 消化性潰瘍の治療と生活指導ができる。		
c. 下痢、便秘の治療ができる。		
d. 吐血、下血の初期治療ができる。		
e. 胆石症、胆嚢炎の治療ができる。		
f. 肝炎、肝硬変の治療と生活指導ができる。		
g. 膵炎の治療ができる。		
h. 外科的適応が理解できる。		
i. 急性腹症の対応ができる。		
j. 癌末期患者の管理ができる。		
k. 糖尿病の食事療法、経口糖尿病薬、インスリンを利用した治療ができる。		
l. 糖尿病昏睡、低血糖に対する対処ができる。		
m. 糖尿病合併症を理解している。		
n. 高脂血症について理解し治療できる。		

循環器科 の研修目標と実施計画

研 修 目 標 内 容	自己 評価	指導医 評価
1) 患者、家族のニーズを身体、心理、社会的側面から把握できる		
2) 医師、患者、家族がともに納得できる医療を行う為のインフォームドコンセントができる		
3) 守秘義務を果たし、プライバシーへの配慮ができる		
4) 指導医に適切なタイミングでコンサルテーションができる		
5) 同僚研修医や他の医療従事者と適切なコミュニケーションがとれる		
6) 臨床上の疑問点を解決するための情報収集と評価ができる		
7) 各疾患の診断および治療ガイドラインを理解し、患者さんへの適応を判断できる		
8) 医療現場での安全確認、清潔確認を理解し実践できる		
9) 患者さんの病歴の聴取と記録ができる		
身体診察および管理		
1) 全身の観察（視診、聴診、触診）ができ、記載できる		
2) 意識、呼吸状態、循環徴候を判断、評価し的確な処置と検査ができる		
3) バイタルサインの変化に早急に対応するための注意義務（モニタリング）を実践できる		
4) 重症疾患でおこりうるバイタルサインの変化を予測できる		
5) 各疾患の急性期におこりうる合併症を理解し説明できる		
6) 各疾患の慢性期におこりうる合併症を理解し説明できる		
7) 疾患により患者さんにおそいかかる精神的不安や苦痛を受け入れ、対応できる		
8) 心血管疾患のリスクとなる生活習慣病を列挙できる		
9) 生活習慣病の運動、食事、薬物療法の方法を理解できる		
心肺停止について		
①心臓マッサージ、人工呼吸、電気的除細動の心肺蘇生術の基本を経験する		
②心肺蘇生ガイドラインを熟知し、正しい蘇生法をおこなうことができる		
③心肺蘇生に必要な薬物の用法や禁忌事項を理解する		
ショックについて		
①心原性ショックを理解し、行うべき治療と検査を列挙できる		
意識障害について		
①意識障害（失神を含む）を生じる循環器疾患を列挙でき、検査、治療方法を理解する		
心不全について		
①心不全の病態と病因を理解できる		
②心不全患者に行う検査を把握し、治療方針を立てることができる		

研 修 目 標 内 容	自己 評価	指導医 評価
③心不全患者の合併症とその予防方法を説明できる		
④心不全の再発予防のための生活指導ができる		
狭心症、心筋梗塞、急性冠症候群について		
①診断と治療の方法を理解できる		
②起こりうる合併症を列挙し説明できる		
③急性期に必要なモニタリングの実際とバイタルサインの把握ができる		
④慢性期の治療やリハビリテーションの方法を理解できる		
⑤退院時指導の要点が理解できる		
心筋症について		
①診断と治療の方法を理解できる		
②起こりうる合併症を列挙し説明できる		
不整脈（主な頻脈性、除脈性不整脈）		
①診断と治療の方法を理解できる		
②起こりうる合併症を列挙し説明できる		
③急性期に必要なモニタリングの実際とバイタルサインの把握ができる		
④ペースメーカー治療の適応を説明できる。手術治療に参加する		
⑤一時的ペーシングの方法と実際を理解し、指導医と共に実践できる		
⑥電氣的除細動とカルディオバージョンを区別し実践できる		
弁膜症について		
①診断と治療（内科的、外科的）の方法を理解できる		
②診断および治療方針決定のための検査を理解し、治療方針を立案できる		
③弁膜症の合併症を理解できる		
動脈疾患（動脈硬化症、大静脈解離等）について		
①診断と治療（内科的、外科的）の方法を理解できる		
②診断および治療方針決定のための検査を理解し、治療方針を立案できる		
静脈、リンパ管疾患（深部静脈血栓症、下肢静脈瘤、リンパ浮腫）		
①診断と治療（内科的、外科的）の方法を理解できる		
②診断および治療方針決定のための検査を理解し、治療方針を立案できる		
高血圧症（本態性、二次性高血圧等）		
①高血圧症の分類ができる		
②高血圧症ガイドラインを熟読し、高血圧症治療について理解する		
③高血圧症の危険因子と臓器障害を説明できる		
④高血圧症患者の生活習慣の修正の指導ができる		
⑤高血圧緊急症への対応ができる		
肺循環障害（肺塞栓について）		

研 修 目 標 内 容	自 己 評 価	指 導 医 評 価
①診断と治療（内科的、外科的）の方法を理解できる		
②本疾患を疑うべき臨床症状を説明できる		
③本疾患の診断に必要な検査を列挙できる		
④本疾患の病態に応じた緊急治療の方法を説明できる		
循環器検査の方法と所見について理解し指導医のもとにできるだけ実践する		
①胸部レントゲン写真		
②心電図（12誘導、モニター）		
③酸素飽和度（パルスオキシメーター）		
④心臓超音波検査（経胸壁、経食管、冠動脈、薬物負荷、コントラスト）		
⑤血管超音波検査（頸動脈、下肢動脈、下肢静脈、腹部大動脈）		
⑥ABI、ドップラー血流計		
⑦運動負荷心電図（トレッドミル）		
⑧心筋シンチグラム（負荷、安静）		
⑨肺血流シンチグラム		
⑩加算心電図		
⑪心臓カテーテル検査（待機、緊急）		
⑫スワングアンツカテーテル検査		
⑬心臓電気生理学的検査		
⑭チルトテスト、起立試験		
⑮採血検査（一般、生化学、血清、血糖、ホルモンなど）		
⑯血液ガス分析		
⑰尿検査（一般、沈渣、ホルモン、電解質など）		

呼吸器科 の研修目標と実施計画

研 修 目 標	内 容	自己 評価	指導医 評価
1. 基本的診察法			
1) 病歴聴取			
2) 全身身体所見の取り方			
3) 胸部の打診、聴診、触診法			
2. 呼吸器および血液疾患、感染症に関する検査法			
1) 一般検尿、血算、血液生化学検査、喀痰検査（一般細菌、抗酸菌、細胞診）			
2) 胸部X線検査			
3) 胸部C T			
4) 呼吸機能検査			
5) 胸水検査			
6) 末梢血塗沫標本作成			
7) 骨髄穿刺法			
8) 血液型検査法			
3. 呼吸器疾患の治療			
1) 吸入療法、体位ドレナージ			
2) 気管支喘息の治療			
3) 呼吸器感染症の治療			
4) 酸素療法			
5) 輸液療法			
6) 肺癌の治療			
4. 血液疾患の治療			
1) 輸血			
2) 貧血の治療			
3) 造血器悪性腫瘍（白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫）の治療			
4) 紫斑病の治療			

神経内科 の研修目標と実施計画

研 修 目 標	内 容	自己 評価	指導医 評価
1. 神経疾患の基本的診察法			
①病歴の取り方			
②一般内科学的所見の取り方			
③神経学的所見の取り方（質的診断、部位診断）			
意識状態、精神状態、高次大脳機能、脳神経系			
筋萎縮と筋力低下、感覚障害、協調運動系、自律神経系			
2. 神経疾患に関する検査			
内科一般検査（血液一般、生化学、血液凝固、ECG、胸部単純XP） 腰椎穿刺、電気生理学検査			
頭部・脊髄画像診断（XP、CT、MRI、SPECT、Angiography）			
神経・筋生検、神経心理学検査、遺伝子診断			
3. 神経疾患の治療			
①薬物治療（血液浄化療法の含む）			
脳血管障害の治療、急性期・慢性期			
パーキンソン病の治療			
各種不随意運動の治療			
免疫性神経疾患の治療			
てんかんの治療			
②神経内科救急疾患の治療			
意識障害、てんかん重責、呼吸筋麻痺			
③その他			
生活指導、リハビリテーション、訪問診療			
4. 研修が望まれる疾患			
脳血管障害（急性期・慢性期）、痴呆（血管性痴呆を含む）			
パーキンソン病、その他の大脳基底核疾患			
脳炎、髄膜炎、多発性硬化症、重症筋無力症、筋萎縮性側索硬化症			
脊髄小脳変性症、ミオパチー、ニューロパチー、てんかん、頭痛、めまい			
脊髄障害、代謝性脳症、一酸化炭素中毒、失神			
加齢に伴う栄養摂取障害、老年症候群（誤嚥、転倒、失禁、褥創等）			
5. 全身管理			

精神科 の研修目標と実施計画

研 修 目 標	内 容	自己 評価	指導医 評価
①	精神医学的な病歴に聴取、初回面接の技法、カルテ記載法を習得する。		
②	精神症状の的確な把握と、精神医学用語の適切な表現を習得する。		
③	精神科に特有な面接法、臨床心理検査を含む診断技能を理解し実践する。		
④	統合失調症、気分障害、症状精神病、中毒性精神病、神経症、てんかん、精神発達遅滞、自閉症、人格障害、老年期精神障害などの病態生理を理解し、診断法を習得する。		
⑤	精神保健福祉法及び関連法規の理解と運用を行う。		
⑥	向精神薬についての正しい知識と使用法や副作用についての基礎を身につける。		
⑦	精神療法、生活療法、集団療法、家族療法、心理教育などの特殊治療を習得する。		
⑧	コンサルテーション・リエゾン精神医学を理解し、他科との連携を学び実践する。		
⑨	症例検討会、回診に参加する。		
⑩	担当患者の症例報告を行う。		

小児科 の研修目標と実施計画

研 修 目 標	内 容	自己 評価	指導医 評価
一般目標：小児の診療を適切に行うために必要となる基礎的な知識・技能・態度を修得する。			
1. 小児科診療の特性			
<input type="checkbox"/> 年齢による疾患の特性を学ぶ。			
<input type="checkbox"/> 親（保護者）の観察を十分に引き出すための問診法を学ぶ。			
<input type="checkbox"/> 親（保護者）とのコミュニケーションの重要性を学ぶ。			
<input type="checkbox"/> 診察に協力を得るため、子供をあやすなどの行為を習得する。			
<input type="checkbox"/> 小児の薬用量、補液量、検査の基準値に関する知識を習得する。			
<input type="checkbox"/> 乳幼児の検査に不可欠な鎮静法、採血、血管確保などを経験する。			
<input type="checkbox"/> 救急診療、時間外診療を経験する。			
2. 面接、指導			
<input type="checkbox"/> 小児、ことの乳幼児に不安を与えないように接することができる。			
<input type="checkbox"/> 親（保護者）から、発病の状況、患児の生育歴、既往歴、予防接種歴などを要領よく聴取することができる。			
<input type="checkbox"/> インフォームド・コンセント、インフォームド・アセントに配慮した対応ができる。			
3. 診察			
<input type="checkbox"/> 小児の正常な身体発育、精神運動発達、生活状況を理解し判断できる。			
<input type="checkbox"/> 小児の年齢差による特徴を説明できる。			
<input type="checkbox"/> 視診による顔貌と栄養状態を判断し、主要症状の有無を知ることができる。			
<input type="checkbox"/> 乳幼児の口腔、咽頭、鼓膜の視診ができる。			
<input type="checkbox"/> 発熱のある患児の診察を行い、日常病の診断と治療ができる。			
<input type="checkbox"/> 熱性けいれんの処置ができる。			
<input type="checkbox"/> 咳をする患児では、咳の出かたと呼吸困難、喘鳴の有無などから、グループ、細気管支炎、気管支喘息の鑑別診断ができる。			
<input type="checkbox"/> 発疹のある患児では、発疹の所見を述べることができ、日常病（麻疹、風疹、突発性発疹、伝染性紅斑、手足口病、単純性ヘルペス感染症、水痘、帯状疱疹、伝染性単核球症、マイコプラズマ感染症、溶連菌感染症）の鑑別ができる。			
<input type="checkbox"/> 下痢の患児では、便の性状（粘液、血液、膿など）を述べることができる。			
<input type="checkbox"/> 嘔吐や腹痛のある患児では、重大な腹部所見を述べることができる。			
<input type="checkbox"/> けいれんや意識障害のある患児では、髄膜刺激症状について述べるができる。			
<input type="checkbox"/> 脱水症の的確な診断と原因について調べることができる。			
4. 新生児			

研 修 目 標 内 容	自 己 評 価	指 導 医 評 価
□新生児の日常的なケア（保育環境、必要水分量の計算、栄養管理、体重測定、バイタルサイン、黄疸の評価など）ができる。		
□新生児の採血ができる。		
□新生児の血管確保ができる。		
□新生児の光線療法の必要性の判断ができる。		
5. 手技、処置		
□採血（毛細血管、静脈血、動脈血）ができる。		
□注射（静脈、筋肉、皮下、皮内）ができる。		
□輸液、輸血ができる。		
□採尿、導尿ができる。		
□坐薬を挿入できる。		
□浣腸ができる。		
□注腸、高圧浣腸ができる。		
□胃洗浄ができる。		
□腰椎穿刺ができる。		
□吸入療法ができる。		
6. 薬物療法		
□小児の年齢に応じた薬用量を理解し、それに基づいて一般薬剤（抗生剤など）を処方できる。		
□乳幼児に対する薬剤の服用、使用について看護師に指示し、親（保護者）に指導することができる。		
□年齢、疾患に応じて補液の種類、量を決めることができる。		
7. 小児救急		
□喘息発作の応急処置ができる。		
□脱水症の応急処置ができる。		
□けいれんの応急処置ができる。		
□腸重積を診断し、整復治療ができる。		
□人工呼吸、心臓マッサージなどの蘇生術を実施することができる。		
□新生児仮死の蘇生術を実施できる。		

外科の研修目標と実施計画

研 修 目 標	内 容	自己 評価	指導医 評価
指導医のもとに2-4名の患者を受持ち、前期研修の課程をさらに深めるとともに、日当直業務を行い実際に救急医療に携わり、以下の目標を達成する			
1. 手術適応、術中、術後管理の基本治療法の実施			
(1) 輸液管理（中心静脈栄養、経腸栄養を含む）			
(2) 呼吸管理、循環管理、各種合併症管理			
2. 以下の手技を実施する			
(1) 創部消毒とガーゼ交換			
(2) 切開・排膿術			
(3) 皮膚縫合法を実施できる			
(4) 局所麻酔法を実施できる			
(5) 甲状腺の診察ができ、記載できる			
(6) 肛門の診察ができ、記載できる			
(7) 胃管の挿入と管理			
(8) 体表良性腫瘍摘出術			
(9) 気管カニューレの交換			
(10) 胃瘻チューブの交換			
3. 以下の手術の助手となる			
(1) 虫垂切除術			
(2) 鼠径ヘルニア根治術			
(3) 痔の手術			
(4) 胃瘻造設術（開腹、内視鏡的）			
(5) 気管切開術			
(6) 腸吻合術			
(7) 甲状腺の手術			
(8) 乳腺の手術			
(9) 胆石症の手術			
(10) 胃悪性腫瘍手術			
(11) 大腸悪性腫瘍手術			
(12) 肝胆膵悪性腫瘍手術			
(13) 肺悪性腫瘍手術			
(14) 腹腔鏡下手術			
(15) 胸腔鏡下手術			
4. 文書（公文書を含む）の記録、保存等の扱いを適切に行う			
(1) 診療録（カルテ）、手術記録、退院時サマリーを記録し、管理できる			
(2) 指示箋、処方箋、各種伝票を作成し、管理できる			

研 修 目 標 内 容	自 己 評 価	指 導 医 評 価
(3) 診断書、死亡診断書（死体検案書を含む）、その他の診断書を作成し管理できる		
(4) 紹介状と、紹介状への返信を作成でき、それを管理できる		
5. 医療面接		
(1) 医療面接におけるコミュニケーションスキルを身につける		
(2) インフォームドコンセントのもとに、患者・家族への適切な指示、誘導ができる		
6. 症例呈示		
(1) 症例呈示と討論ができる		
(2) 臨床症例に関するカンファレンスや学術集会に参加する		
7. 緩和・終末期医療		
(1) 臨終の立会いを経験する		
(2) 癌性疼痛管理を含む緩和ケアを理解する		
(3) 癌告知をめぐる諸問題への配慮ができる		
(4) 患者とその家族に対して心理的社会的側面への配慮ができる		
(5) 緩和ケアチーム、栄養サポートチームなどへ積極的に参加し、チーム医療の重要性を理解する		